

「ホットペッパーグルメ外食総研」によるタウン別・飲食動向調査 最新！ 外食&中食タウンランキング【東海圏版】

外食市場規模・中食市場規模ともに第1位は「名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）」
通勤圏の拡大で「大垣」「国府宮・稲沢」など居住圏域での外食に勢い

株式会社リクルートライフスタイル(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野 健)の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」(<https://www.hotpepper.jp/ggs/>)では、首都圏・東海圏・関西圏の男女約1万人を対象に毎月実施している「外食市場調査」の結果を元に、2018年度のタウン別ランキングを発表します。

2018年度外食&中食タウンランキング【東海圏版】

■ 2018年度外食市場規模ランキングトップ10

	タウン名	外食市場規模	前回順位
1位	名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）	629億円	1位
2位	栄・伏見（矢場町）	490億円	2位
3位	岐阜・名鉄岐阜（西岐阜）◎	210億円	4位
4位	金山	192億円	3位
5位	豊田市駅周辺◎	119億円	5位
6位	今池（千草）	117億円	6位
7位	尾張一宮・名鉄一宮◎	110億円	7位
8位	春日井・勝川（高蔵寺）◎	109億円	9位
9位	近鉄四日市◎	104億円	7位
10位	大曽根・ナゴヤドーム前矢田（黒川）	91億円	12位

■ 2018年度中食市場規模ランキングトップ10

	タウン名	中食市場規模	前回順位
1位	名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）	97億円	1位
2位	春日井・勝川（高蔵寺）◎	53億円	3位
3位	栄・伏見（矢場町）	51億円	2位
4位	岐阜・名鉄岐阜（西岐阜）◎	50億円	4位
5位	尾張一宮・名鉄一宮◎	49億円	5位
6位	大曽根・ナゴヤドーム前矢田（黒川）	35億円	8位
7位	豊田市駅周辺◎	32億円	6位
8位	近鉄四日市◎	31億円	7位
9位	金山	27億円	10位
9位	東岡崎駅周辺◎	27億円	8位

※東海圏：22タウンを設定

※無印：半径2kmのタウン、◎：半径4kmのタウン

※今年度、名称が変わったタウンがあるが、タウンに含まれる駅は変わっていない。タウンの名称は、外食件数が一定より上位の駅名を含める形で表示している。

「ホットペッパーグルメ外食総研」上席研究員・稲垣 昌宏が東海圏の外食動向を解説！



「ホットペッパーグルメ外食総研」
上席研究員 稲垣 昌宏

中心部の地価高騰で通勤圏が拡大、周辺都市での外食に勢い

外食数の多い駅をコア駅として東海圏で22タウンを設定、各タウンの特徴をランキング化しました。外食・中食の市場規模では「名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）」が、6年連続の1位。ただし、2018年度は外食・中食とも2位のタウンとの差は縮まりました。名古屋市中心部はリニア中央新幹線の開業が決まる等で、近年、地価が上昇し、通勤圏の拡大とともに外食店も郊外での出店がトレンドになっています。加えて近年は職場の飲み会が減り、家族での外食が増える傾向で、東海圏では「大垣駅周辺」「国府宮・稲沢」等、岐阜方面をはじめ、居住圏域での外食に勢いがあります。

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press>

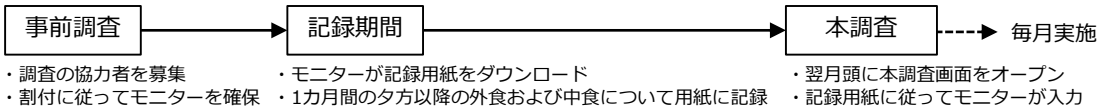
調査概要

- **調査目的** 首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の夕食および中食の市場規模を把握することを目的に実施。また、主要タウン別の市場規模や、性年代別の夕食・中食の実態を明らかにすることも目的とした。
- **調査対象** 東海圏の場合、圏域中心部からの鉄道距離が、おおむね60分圏の市区町村に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

調査対象	東海圏		
調査対象者の居住地の範囲	・愛知県（一部除外）	・岐阜県の一部	・三重県の一部

- **調査方法** インターネットによる調査

● 調査の流れ



- **割付の設定** 本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、性別2区分×年代別5区分（20代/30代/40代/50代/60代）×地域4区分＝40区分で割付をおこなって回収した。
- **集計方法** 本調査結果は、H28人口推計に基づいて性別2区分×年代別5区分×地域4区分＝40区分でウェイトバック集計をおこなっている。また、年間集計にあたっては、個人単位集計の場合、毎月同数の人に調査した形に補正して集計している。夕食単位集計、中食単位集計の場合、毎月の夕食単位、中食単位のウェイトバック後のサンプルを合算して年間集計をおこなっている。

※前年度調査で使用した基準人口に県×性年代別のH27国勢調査人口→H28人口推計の増減率をあてて計算。
 ※2017年度の基準人口：H27国勢調査人口 ※基準人口の前年度比 東海圏：+0.1%

● サンプル数

		2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2019年	2019年	2019年	2018年	2017年	
		4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度			年度間
本調査 (3圏域計)	実施期間	18/5/1 ～5/10	18/6/1 ～6/6	18/7/2 ～7/10	18/8/1 ～8/7	18/8/31 ～9/11	18/10/1 ～10/10	18/11/1 ～11/7	18/11/3 0～12/7	19/1/7 ～1/16	19/2/1 ～2/7	19/3/1 ～3/7	19/4/1 ～4/9			
	配信数(件)	13,161	13,345	13,256	12,349	12,206	12,193	13,347	12,309	12,368	13,171	13,098	15,343			
	回収数(件)	10,347	10,410	10,422	9,084	9,906	9,592	9,915	9,743	9,675	10,423	10,131	12,089			
	回収率	78.6%	78.0%	78.6%	73.6%	81.2%	78.7%	74.3%	79.2%	78.2%	79.1%	77.3%	78.8%			
	有効回答数(件)	10,268	10,337	10,343	8,993	9,849	9,521	9,847	9,681	9,607	10,363	10,050	11,999	2018年	2017年	
集計数	個人単位 (居住圏域)	東海圏(件)	1,571	1,581	1,582	1,376	1,507	1,456	1,506	1,481	1,470	1,585	1,537	1,836	1,541	1,545

※集計サンプル数はウェイトバックによる補正後の件数 ※年間集計のサンプル数は、毎月同数の人に調査した形に補正後の件数
 ※個人単位の年間集計のサンプル数は、毎月同数の人に調査した形に補正後の件数

本調査における定義・設定等

● 本調査での「夕食」は、夕方以降の食事について、お店で食事した場合を対象

- ・飲酒のみ、喫茶のみの場合も含まれる。
- ・夕方以降、複数回夕食した場合、1日あたり2回まで（2軒目まで）の夕食を含んでいる。

● 本調査での「中食」は、夕方以降の食事について、外で買って来たものを食べた、出前や宅配を利用して食べた場合を対象

- ・食事の一部（おかずのみ等）を買ってきて食べた場合も含まれる。
- ・夕方以降、複数回中食した場合、1日あたり2回まで（購入金額の上位2位まで）の中食を含んでいる。

● 対象範囲の設定

- ・消費地の範囲は、圏域の居住者が圏域の対象府県内でおこなった夕食や中食（ただし購入した場所）を対象としており、圏域外（圏域外の都道府県や海外）でおこなった夕食や中食は含んでいない。ただし、圏域内への旅行・出張は含まれる。

対象範囲	東海圏
消費地の対象範囲	・愛知県 ・岐阜県 ・三重県

● タウンの設定

- ・昨年度1年間の調査結果から、圏域ごとに夕食件数の多い上位35駅を中心として、都心部（名古屋市内）は半径2km、周辺部は半径4kmの範囲に含まれる駅を合わせて、1つのタウンとして設定した。
- ・複数の円が重なる位置にある駅や円のごく周辺にある駅はより関係性が強いコア駅のタウンに振り分け、各タウンの範囲は重複しない。
- ・東海圏は、22タウンが設定された。
今年度、名称が変わったタウンがあるが、タウンに含まれる駅は変わっていない。ただし、直近1年間に新設された駅は、該当するタウンがあれば追加している。無印：半径2kmのタウン、◎：半径4kmのタウン

●半径2kmのタウン	●半径4kmのタウン	●半径4kmのタウン（続き）	●半径4kmのタウン（続き）
1 名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）	7 岩倉・西春◎	13 国府宮・稲沢◎	19 大垣駅周辺◎
2 金山	8 三河安城・安城◎	14 刈谷駅周辺◎	20 多治見駅周辺◎
3 栄・伏見（矢場町）	9 尾張一宮・名鉄一宮◎	15 東岡崎駅周辺◎	21 近鉄四日市◎
4 今池（千草）	10 江南駅周辺◎	16 岡崎駅周辺◎	22 桑名駅周辺◎
5 大曾根・ナゴヤドーム前矢田（黒川）	11 小牧駅周辺◎	17 豊田市駅周辺◎	
6 藤が丘	12 春日井・勝川（高蔵寺）◎	18 岐阜・名鉄岐阜（西岐阜）◎	

2018年度外食タウンランキングトップ5【東海圏版】

■外食市場規模の前年伸び率が高いタウン

順位	タウン名	外食市場規模(億円)	前年度比
1位	大垣駅周辺◎	61	118.9%
2位	国府宮・稲沢◎	33	117.7%
3位	春日井・勝川（高蔵寺）◎	109	114.2%
4位	多治見駅周辺◎	43	111.4%
5位	大曽根・ナゴヤドーム前矢田（黒川）	91	111.1%

■カップルの利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	江南駅周辺◎	10.0%	10.2%	1位
2位	栄・伏見（矢場町）	8.9%	10.1%	2位
3位	豊田市駅周辺◎	8.4%	5.8%	10位
4位	名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）	8.0%	10.1%	2位
5位	今池（千草）	7.6%	9.7%	4位
5位	大垣駅周辺◎	7.6%	4.9%	14位

※カップル：外食の相手が「恋人や異性の相手と2人で」を集計

■ワーキングマザーの利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	多治見駅周辺◎	12.1%	6.5%	4位
2位	大垣駅周辺◎	10.9%	10.2%	1位
3位	春日井・勝川（高蔵寺）◎	10.2%	9.2%	2位
4位	小牧駅周辺◎	9.7%	8.5%	3位
5位	岩倉・西春◎	6.7%	5.5%	7位

※ワーキングマザー：職業が「公務員」「経営者・役員」「会社員」「自由業」「自営業」のいずれかで、「子どもがいる」「女性」

■「喫茶店・カフェ」の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	栄・伏見（矢場町）	4.0%	3.7%	1位
2位	名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）	2.8%	2.4%	5位
3位	藤が丘	2.4%	1.8%	10位
3位	尾張一宮・名鉄一宮◎	2.4%	1.9%	9位
5位	三河安城・安城◎	2.3%	2.1%	7位
5位	豊田市駅周辺◎	2.3%	1.8%	10位

■「焼肉、ステーキ、ハンバーグ等の専門店」の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	岡崎駅周辺◎	13.8%	11.1%	5位
1位	多治見駅周辺◎	13.8%	8.6%	14位
3位	春日井・勝川（高蔵寺）◎	12.8%	11.8%	3位
4位	三河安城・安城◎	12.5%	12.9%	1位
4位	小牧駅周辺◎	12.5%	11.2%	4位

外食市場規模の伸び率トップは「大垣駅周辺」で、外食単価と延べ外食回数がともに伸びたことが要因。特に単価の上昇が市場規模の伸びにつながったが、駅南側のマンション開発などが進んでおり、外食に比較のお金をかける層が流入している可能性がある。単価は男性の伸びが顕著で、特に20・60代で大きく伸びている。業態別では、居酒屋、ファミリーレストラン・回転すし業態等が市場規模を拡大した。

外食デートで利用されるタウン1位は、2年連続して「江南駅周辺」。2016年度は2位、2015年度は12位と、ここ数年で一気にランクアップした。江南市には藤の名所として有名な曼陀羅寺やフラワーパーク江南がデートスポットとして有名で、名古屋市内から訪れるカップルも多いが、食品メーカーの工場等を有し若い女性従業員も多いことから、地元カップルの外食デートにも使われることでシェアが高まっていると考えられる。

子どものいる就業女性による外食のシェアを比較したランキングでは、外食市場の成長率4位の「多治見駅周辺」が12.1%で首位。多治見市では、市の総合計画で「たじみ子ども未来プラン」を位置づけ、継続的に子育てしやすい環境整備を推進している。名古屋方面へは始発の電車があって通勤時に座れることやJR多治見駅徒歩1分の市役所内に子育て支援拠点があることから、ワーキングマザーを多く有し、多治見駅周辺での外食につながっていると考えられる。

喫茶店と言えば、名古屋の食文化の一つとして全国的に有名だが、その利用割合が最も高かったタウンは「栄・伏見（矢場町）」だった。このエリアはオフィス街としてカフェが多い他、大型商業施設内でのショッピングブレイクとしてのカフェ使いも多い。さらに、タウンに含まれる大須観音周辺にはおしゃれカフェも続々誕生しており、名古屋名物の“モーニング”をウリにする喫茶店とは一線を画す流行の発信地となっている。

肉業態の利用シェアが高いタウンは「岡崎駅周辺」と「多治見駅周辺」が同率で1位。岡崎では、岡崎駅と東岡崎間の県道沿いにマンション・アパートが多く建ち、ファミリー層の増加により焼肉・ハンバーグ等、家族に人気の業態が活況。多治見も同様にファミリー層が多く、休日は車を利用して外食に出かけることが多いため、駐車場を有する街道沿いの肉業態の人気が高いと考えられる。

2018年度外食タウンランキングトップ5【東海圏版】

■「和食料理店（すし、割烹、料亭、郷土料理専門店等）」の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	桑名駅周辺◎	14.7%	17.7%	1位
2位	近鉄四日市◎	13.8%	14.8%	2位
3位	多治見駅周辺◎	12.2%	11.9%	5位
4位	今池（千草）	12.1%	12.1%	4位
5位	大垣駅周辺◎	11.6%	12.4%	3位

和食の利用シェアが高いタウンは「桑名駅周辺」が1位。「桑名駅周辺」は2016年度・2017年度と2年連続して市場規模の伸び率が東海圏で1位だったタウンだが、2018年度は一転して伸び率では22タウン中最下位。駅前の再開発などで一時は活況を呈していたが、2018年度は外食数が伸び悩んだ。そんな中、外食単価は22タウン中6位と健闘しており、相対的に単価の高い和食のシェアが高いことが寄与していると思われる。

■サラリーマンの利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	刈谷駅周辺◎	55.7%	43.8%	3位
2位	豊田市駅周辺◎	46.0%	46.0%	2位
3位	江南駅周辺◎	44.6%	47.2%	1位
4位	金山	44.2%	41.8%	5位
5位	近鉄四日市◎	44.1%	42.5%	4位

男性・会社員の外食の割合が高いタウンは「刈谷駅周辺」が1位、「豊田市駅周辺」が2位であった。両市とも言わずと知れた企業城下町で、そもそものサラリーマン人口が多いことが、ランキングにつながっていると言って間違いないだろう。「刈谷駅周辺」では、そうした客層を狙ってか、最近は立ち飲みやバル業態の飲食店が増えているよう。また、街おこしとして定期的にグルメイベントも行われているようだ。

※サラリーマン：職業が「会社員」の「男性」

■女性の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	女性シェア	前回値	前回順位
1位	岡崎駅周辺◎	49.0%	47.9%	4位
2位	藤が丘	48.8%	47.4%	5位
3位	春日井・勝川（高蔵寺）◎	47.7%	52.1%	1位
4位	東岡崎駅周辺◎	46.9%	43.7%	9位
5位	国府宮・稲沢◎	46.8%	49.1%	2位

肉業態の利用シェアが高いタウン1位の「岡崎駅周辺」は、女性の利用シェアが高いタウンとしても1位という結果。女性の焼肉好きはもはや常識か。岡崎市では人口・世帯数とも増加傾向で、人口比率的には男性の方がやや多い。その中で女性の外食が活発なのは、古民家カフェなどSNS映えする女性好みの飲食店の影響力が関係している可能性がある。それもあってか、「岡崎市駅周辺」の飲酒率は22タウン中18位と下位である。

■外食単価が低いタウン

順位	タウン名	外食単価(円)	前年度比	前回順位
1位	国府宮・稲沢◎	1,494	104.2%	1位
2位	江南駅周辺◎	1,576	93.6%	3位
3位	岩倉・西春◎	1,674	102.3%	2位
4位	尾張一宮・名鉄一宮◎	1,739	94.5%	5位
5位	小牧駅周辺◎	1,851	100.9%	4位

外食単価の低いタウン1位は、市場規模の伸び率2位で注目される「国府宮・稲沢」。2位は「江南駅周辺」、3位は「岩倉・西春」。外食単価の高低は飲酒率の高低と逆の相関にあり、「国府宮・稲沢」は飲酒を伴わない外食のシェアが高いタウン1位、「江南駅周辺」は同3位、「岩倉・西春」は同2位となっている。「国府宮・稲沢」は、近隣の工場に自動車通勤している人が多く、そのため飲酒率と単価が低くなる構造と考えられる。

■インターネット予約のシェアが高いタウン

順位	タウン名	インターネット予約シェア	前回値	前回順位
1位	名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）	16.0%	12.9%	1位
2位	多治見駅周辺◎	13.5%	9.1%	4位
3位	栄・伏見（矢場町）	11.6%	10.2%	3位
4位	金山	11.0%	10.3%	2位
5位	東岡崎駅周辺◎	9.3%	6.8%	10位

インターネット予約の進んでいるタウン1位は「名古屋（JR・近鉄・名鉄名古屋）」。東海圏平均8.1%の倍近い16.0%の予約シェアがあった。そもそも予約しての飲食が多いタウン（東海圏平均26.7%に対して44.2%）だが、特に男性30代・20代、女性40代の順でインターネット予約が多く、お好み焼き・鉄板焼き等の専業や、すき焼き・しゃぶしゃぶ等の専業店の予約が盛んだ。